

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191500034		
法人名	有限会社さくら苑		
事業所名	グループホームさくら苑		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254-2		
自己評価作成日	平成27年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年4月14日	外部評価確定日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然や四季を、居ながらにして感じられる様に、窓を大きく取り、明るく開放的に保てるような施設作りを心掛けた。また、周りをバルコニーで囲み、いつでも戸外に居るような雰囲気味わえるような空間を設けている。緑あふれる中でゆったりと利用者様が過ごせるように、広い畑や花壇を確保している。天気の良い日に外へ出て野山の景色や日光浴を楽しんだり、畑や花壇の周りを散歩して季節を感じられる様になっている。草木や季節の野菜、果実、花など利用者様と育て、楽しめるような機会を作りたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

施設は静かな山間にあり、利用者が集う居間からは畑の作物や果物の木、雑木林が見え自然の移り変わりが外に出ないでも十分に感じられる環境にある。ひとりの利用者は「鳥の鳴き声がめざまし代わり」と笑顔で話される。介護職員も地元在住者が多く、日々の会話も身近な会話が交わされている。民宿を営んでいた創設者の「終の棲家として、人生の最後のページを支えたい」という思いが伝わってくる施設である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価/ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気づき」「目くばり」「心くばり」を基本とし、心に優しい介護と、一人ひとりのあるがままを大切にしたい気持ちを忘れないように、職員は毎朝の唱和や事業所内の掲示により意識付けしている、また、ミーティング等で常に確認し利用者様を中心とした介護を共有している。	「気づき」「目くばり」「心くばり」を基本とし、心に優しい介護と、一人ひとりのあるがままを大切にしたい気持ちを忘れないように、職員は毎朝の唱和や事業所内の掲示により意識付けしている、また、ミーティング等で常に確認し利用者様を中心とした介護を共有している。	創設の時作った理念である。介護の基本と考えている。事業所内の掲示や毎日のミーティングなどで全職員がケアに反映されているか確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の職員が多く、近隣の職員もいるので、地域の行事や清掃活動にも参加し日常的に交流を図れている。週に1回、ゴミステーションの清掃を行い、近隣の人から喜ばれている。	地元の職員が多く、近隣の職員もいるので、地域の行事や清掃活動にも参加し日常的に交流を図れている。週に2回、ゴミステーションの清掃を行い、近隣の人から喜ばれている。	週2回のゴミステーションの清掃作業や認知症サポーター養成講座など地域の一員として何ができるか取り組んでいる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会などで、認知症サポーター養成講座を開き、認知症の方の理解や支援の方法、対応の仕方などを伝え、地域の方たちと一緒に認知症の人を支える取り組みをしている。	老人会などで、認知症サポーター養成講座を開き、認知症の方の理解や支援の方法、対応の仕方などを伝え、地域の方たちと一緒に認知症の人を支える取り組みをしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい、ホームの活動や行事計画を報告したり、地域での事業所としての関わり方などを話し合い、地域に密着していく取り組みをしている。	運営推進会議では、家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい、ホームの活動や行事計画を報告したり、地域での事業所としての関わり方などを話し合い、地域に密着していく取り組みをしている。	主に家族、地域や行政代表者に参加してもらい、2ヶ月に1回開催している。前回は看取りについての意見交換を行う等、様々な課題についての意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは、ホームの運営方法などの相談をしたり、状況を報告したりなどの関係が築かれている。また、包括支援センターとは、介護サービス事業所連絡会議や研修会に参加したり、対処困難時には相談しケア会議を開くなど協力関係が築かれている。	町の担当者とは、ホームの運営方法などの相談をしたり、状況を報告したりなどの関係が築かれている。また、包括支援センターとは、介護サービス事業所連絡会議や研修会に参加したり、対処困難時には相談しケア会議を開くなど協力関係が築かれている。	地域包括支援センターが施設近くにあり、積極的に出かけ何でも相談できる関係作りを心がけている。毎月定例で行われる研修会にも必ず参加する等、連絡、協力関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し、外部研修に参加したり、社内研修会を開くなどして、基準や法令の正しい理解と、利用者様の尊厳を大切に、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせずに利用者様がなるべく自由に暮らせるよう、さりげなく見守り、支えていくように取り組んでいる。	身体拘束に関する指針を作成し、外部研修に参加したり、社内研修会を開くなどして、基準や法令の正しい理解と、利用者様の尊厳を大切に、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせずに利用者様がなるべく自由に暮らせるよう、さりげなく見守り、支えていくように取り組んでいる。	昼間は玄関は施錠していないがチャイムは設置している。外出を止めるのではなく、一緒に出かけるなど安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、外部研修や社内勉強会を開き、虐待とはどういうものか、虐待を見逃していないか、通報の義務など、チェックシートで確認し、虐待の防止に努めている。	事業所で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、外部研修や社内勉強会を開き、虐待とはどういうものか、虐待を見逃していないか、通報の義務など、チェックシートで確認し、虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの担当者との話し合い、成年後見人の申し立てを行った利用者様がおられる。利用者様と制度について共に理解をしながら活用の支援を行った。	包括支援センターの担当者との話し合い、成年後見人の申し立てを行った利用者様がおられる。利用者様と制度について共に理解をしながら活用の支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書には相談窓口、担当者を明記している。	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書には相談窓口、担当者を明記している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の声には、些細な事でも耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている、介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。家族会や家族とのカンファレンス、面会時には、支援の状況を報告し、利用者様と家族の意見や要望を反映させ支援をするように努めている。	利用者様や家族の声には、些細な事でも耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている、介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。家族会や家族とのカンファレンス、面会時には、支援の状況を報告し、利用者様と家族の意見や要望を反映させ支援をするように努めている。	家族に対してアンケート調査を実施する他、何でも言ってもらえる様な雰囲気づくりに留意している。出された意見や、要望などはミーティングで話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役員会議、常勤会議、各ユニット会議、夜勤会議、給食会議、全体合同会議など、様々な立場の意見や提案を聞く機会を設けている。代表と管理者は全てに参加し運営の改善に努めている。又、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している	役員会議、常勤会議、各ユニット会議、夜勤会議、給食会議、全体合同会議など、様々な立場の意見や提案を聞く機会を設けている。代表と管理者は全てに参加し運営の改善に努めている。又、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している	代表者、管理者は職員と個人面談を行い、利用者との関係、職員間の関係など悩みや意見を聞くよう心がけている。施設内の担当職員の異動は1～2年で行われることが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設けている。	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修会では、職員がテーマを決め勉強会や事例発表会を開催している。能力に合った外部研修会への参加を促したり、や講演会が開催される際には案内を出し参加を呼び掛けている。研修や資格試験の時は勤務時間の調整をしたり、勉強会を開くなど環境整備に努めている。	毎月の社内研修会では、職員がテーマを決め勉強会や事例発表会を開催している。能力に合った外部研修会への参加を促したり、や講演会が開催される際には案内を出し参加を呼び掛けている。研修や資格試験の時は勤務時間の調整をしたり、勉強会を開くなど環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、毎月、地域密着サービス連携会議を開き、意見交換会や勉強会、事例発表会等を行い良い協力関係を築いている。職員は自由に参加ができ、交流を深め、相互のサービスの質の向上に努めている。	地域の同業者とは、毎月、地域密着サービス連携会議を開き、意見交換会や勉強会、事例発表会等を行い良い協力関係を築いている。職員は自由に参加ができ、交流を深め、相互のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と、お話をする時間を大切に、本人が不安な気持ちにならないように、利用者様のニーズにしっかりと耳を傾け、共感する気持ちを大切に、信頼される関係づくりに努めている。	利用者様と、お話をする時間を大切に、本人が不安な気持ちにならないように、利用者様のニーズにしっかりと耳を傾け、共感する気持ちを大切に、信頼される関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前には自宅や現在生活をされている場所で家族と話し合いの機会を持つようにしている。不安や要望に耳を傾け、会議等でも十分に話し合い、安心して利用できるよう信頼関係づくりに努めている。	サービス開始前には自宅や現在生活をされている場所で家族と話し合いの機会を持つようにしている。不安や要望に耳を傾け、会議等でも十分に話し合い、安心して利用できるよう信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々な専門職の立場や意見から、本人や家族にとって何が必要かを話し合い、他のサービスの検討もしながら、入所だけにとらわれない対応に努めている。	色々な専門職の立場や意見から、本人や家族にとって何が必要かを話し合い、他のサービスの検討もしながら、入所だけにとらわれない対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員の信頼関係により、一つ屋根の下で、本人を主体とした対等の立場で共に生活していく環境づくりに努めている。	本人と職員の信頼関係により、一つ屋根の下で、本人を主体とした対等の立場で共に生活していく環境づくりに努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、面会時や電話等で常に本人の状況を報告し、時には相談し協力を仰いだり、家族と外泊や外食を出来るように調整したり、共に支えていく関係を築いている。	家族には、面会時や電話等で常に本人の状況を報告し、時には相談し協力を仰いだり、家族と外泊や外食を出来るように調整したり、共に支えていく関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の催しや法事などの出席、友人や知人の面会など、利用者や家族の要望には出来るだけ応えるようにしている。また、毎月、家族にホームでの様子をお伝えする便りを送り、行事などの参加の案内をしている。	家族の催しや法事などの出席、友人や知人の面会など、利用者や家族の要望には出来るだけ応えるようにしている。また、毎月、家族にホームでの様子をお伝えする便りを送り、行事などの参加の案内をしている。	月1回地元のサークル活動グループに来てもらうなど地域との関係が継続できるように、積極的なアプローチを心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席やソファの位置、居室などの配慮や、対応を心がけている。また、共通した話題やレクリエーションなど利用者同士が関わり合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、席やソファの位置、居室などの配慮や、対応を心がけている。また、共通した話題やレクリエーションなど利用者同士が関わり合えるような支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価/ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、いつでも相談に応じられることを伝え、その後のサービスについても必要に応じて支援が出来るように取り組んでいる。	利用が終了しても、いつでも相談に応じられることを伝え、その後のサービスについても必要に応じて支援が出来るように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用開始時より常に、本人や家族から望まれる生活を聞き、より希望に添ったケアプラン作りに努めている。また、困難な場合でも、家族と協力しながら、望みを持ち続けていける様な支援に努めている。	利用開始時より常に、本人や家族から望まれる生活を聞き、より希望に添ったケアプラン作りに努めている。また、困難な場合でも、家族と協力しながら、望みを持ち続けていける様な支援に努めている。	日々の行動や表情、会話の中から利用者の思いを汲み取り把握に努めている。出来るだけ具体的な意見を聞きケアプランに反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人と家族、または、関係者より話を聞き、生活歴、生活環境の把握に努めている。また、ケース会議などで職員全体で把握することに努めている。	利用者本人と家族、または、関係者より話を聞き、生活歴、生活環境の把握に努めている。また、ケース会議などで職員全体で把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動を見守り介助する中で、心身機能の状態の変化を把握し、自立を促す援助方法を話合っている。また、一日の過ごし方の中から精神状態の変化を把握して不安を解消できるように努めている。	一人ひとりの行動を見守り介助する中で、心身機能の状態の変化を把握し、自立を促す援助方法を話合っている。また、一日の過ごし方の中から精神状態の変化を把握して不安を解消できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議では様々な立場から意見を出し合い、3ヶ月毎のモニタリングでは、本人や家族の話、時には主治医の意見を聞き、見直ししながら、本人が目標を持って取り組めるような介護計画になるように作成をしている。	毎月のケース会議では様々な立場から意見を出し合い、4ヶ月毎のモニタリングでは、本人や家族の話、時には主治医の意見を聞き、見直ししながら、本人が目標を持って取り組めるような介護計画になるように作成をしている。	担当者や介護支援専門員が気づきや意見、アイデアを出し合い利用者主体の暮らしを反映した介護計画にすることを心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそって、利用者一人ひとり日々の様子や身体状況を個別に記録し、スタッフが常の把握出来るようにしている。	介護計画にそって、利用者一人ひとり日々の様子や身体状況を個別に記録し、スタッフが常の把握出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	両ユニット間の交流、隣接するデイサービスとの交流、地域やボランティアとの交流、季節ごとの外出や買い物など、その時のニーズに合わせた対応に取り組んでいる。	両ユニット間の交流、隣接するデイサービスとの交流、地域やボランティアとの交流、季節ごとの外出や買い物など、その時のニーズに合わせた対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価/ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価/ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動や公共施設など把握し、苑での行事へ定期的に取り入れ、外出時などは予め下見を行い、安全を確保できるか検討し、その資源の中で本人の力で楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティア活動や公共施設など把握し、苑での行事へ定期的に取り入れ、外出時などは予め下見を行い、安全を確保できるか検討し、その資源の中で本人の力で楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	希望される主治医への受診・往診は継続して行けるようにしている。適切な医療を受けられるよう、受診時には担当の職員が健康状態を家族や医師に正確に伝え、必要時には一緒に同行し診断に立ち会うように支援している。診察時間外でも緊急時には連絡が取れるように連携している。	希望される主治医への受診・往診は継続して行けるようにしている。適切な医療を受けられるよう、受診時には担当の職員が健康状態を家族や医師に正確に伝え、必要時には一緒に同行し診断に立ち会うように支援している。診察時間外でも緊急時には連絡が取れるように連携している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。家族対応の受診については事前に医師へ状態の報告を行っている。複数受診についても医療機関との連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師には常に利用者の状態や変化を伝え相談し、異常時には早期に発見し対応出来るようにしている。また、適切な処置が受けられるよう看護師と介護職員の情報共有に努めている。	看護師には常に利用者の状態や変化を伝え相談し、異常時には早期に発見し対応出来るようにしている。また、適切な処置が受けられるよう看護師と介護職員の情報共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や経過カンファレンス時には職員も家族と一緒に出席し、情報の交換、退院について話し合うようにしている。また、入院期間中は地域連携室と連絡を取り合い病状の経過や退院後の対応について話し合っている。	入院時や経過カンファレンス時には職員も家族と一緒に出席し、情報の交換、退院について話し合うようにしている。また、入院期間中は地域連携室と連絡を取り合い病状の経過や退院後の対応について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化、看取りに関する指針」を作成し、入所時より、状況に応じ説明し、話し合いの場を設けるようにしている。十分に理解されたうえで、本人や家族の希望に沿って主治医の協力を得ながら方針を共有し、主治医・看護師・スタッフが連携して支援に取り組んでいる。	「重度化、看取りに関する指針」を作成し、入所時より、状況に応じ説明し、話し合いの場を設けるようにしている。十分に理解されたうえで、本人や家族の希望に沿って主治医の協力を得ながら方針を共有し、主治医・看護師・スタッフが連携して支援に取り組んでいる。	入所の時に説明し、本人や家族の意向の聞き取りを行っている。段階ごとに関係者の意向を確認しながら主治医同席のもと対応方針についても協議し、共有化された支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来苑していただき、救急救命の講習を行ったり、心肺蘇生の外部研修に参加するなど、定期的に訓練を行っている。	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来苑していただき、救急救命の講習を行ったり、心肺蘇生の外部研修に参加するなど、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと、全職員が参加して年に2回の避難・消火・通報訓練を行っている。1回は夜の時間帯での訓練を行うなど、様々な想定で、より実際に近い形での訓練を行っている。また、近隣住民の皆様にも訓練に参加いただき協力体制を築いている。	消防署の立会いのもと、全職員が参加して年に2回の避難・消火・通報訓練を行っている。2回は夜の時間帯での訓練を行うなど、様々な想定で、より実際に近い形での訓練を行っている。また、近隣住民の皆様にも訓練に参加いただき協力体制を築いている。	火災訓練は年2回実施されている。前回は夕刻の薄暗い時間近隣者の協力を得て実施されている。地区には消防団がなく、高齢化地域で地域住民の協力の限界があることが施設の悩みである。食材の備蓄については2、3日分保存している。	施設としても十分に認識されていることから、自治体との協力体制の整備の検討等の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議では常に、日頃の介助方や対応・言葉使いについて話し合い、利用者の身になって接するように心掛けている。今していることを常識と思わないで、よりその人の尊厳を損ねない対応を考えるようにしている。	会議では常に、日頃の介助方や対応・言葉使いについて話し合い、利用者の身になって接するように心掛けている。今していることを常識と思わないで、よりその人の尊厳を損ねない対応を考えるようにしている。	個人の尊重については管理者を中心に学習を重ねている。日常的な確認と改善に向け事業所全体で取り組んでいる		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話には出来る限り聞くように心がけている。利用者が自己決定し易いような問いかけで自己決定を促し、決定されたことは尊重し、出来る限り希望に添った支援と利用者中心のケアを心がけている。	本人の話には出来る限り聞くように心がけている。利用者が自己決定し易いような問いかけで自己決定を促し、決定されたことは尊重し、出来る限り希望に添った支援と利用者中心のケアを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった環境の中でも、職員の業務内容を工夫することで、利用者との関わる時間を増やし、一人ひとりのペースと希望に添った支援に取り組んでいる。	決まった環境の中でも、職員の業務内容を工夫することで、利用者との関わる時間を増やし、一人ひとりのペースと希望に添った支援に取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族に好みを聞き服を買ったり、訪問美容やお化粧、ネイルなど、歳をとってもおしゃれが出来る喜びを支援している。また、季節の行事には着物を着付け参加して頂いたりしている。	本人や家族に好みを聞き服を買ったり、訪問美容やお化粧、ネイルなど、歳をとってもおしゃれが出来る喜びを支援している。また、季節の行事には着物を着付け参加して頂いたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。また、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に食事をしていく。窓から見える畑からは季節の野菜が採れ、楽しみにもなっている。	利用者の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。また、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に食事をしていく。窓から見える畑からは季節の野菜が採れ、楽しみにもなっている。	施設の隣にある代表者所有の畑や果樹園で採れた旬の野菜を使った食事が日々の食卓に並ぶ。利用者とは一緒に下ごしらえをしたり、後片付けの協力を得ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会議を行い、食事の量、食べやすい大きさ、栄養バランス、水分の量などを検討し、一人ひとりの状態に応じた食事の提供に努めている。	給食会議を行い、食事の量、食べやすい大きさ、栄養バランス、水分の量などを検討し、一人ひとりの状態に応じた食事の提供に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じた声掛け、一部介助、全介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けてたり、口腔機能研修会に参加するなど、口腔ケアの大切さも重視している。	毎食後、一人ひとりの状態に応じた声掛け、一部介助、全介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けてたり、口腔機能研修会に参加するなど、口腔ケアの大切さも重視している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い本人の排泄リズムを把握し、おむつを使用されている方でもトイレへ誘導し、動作の介助を行う事でトイレでの排泄が出来るように支援したり、布パンツへ戻し自立した排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表を用い本人の排泄リズムを把握し、おむつを使用されている方でもトイレへ誘導し、動作の介助を行う事でトイレでの排泄が出来るように支援したり、布パンツへ戻し自立した排泄が出来るように支援している。	個々の排泄リズムを把握し、トイレでの排泄を大切にしている。紙パンツから布パンツへオムツをしないですむ暮らしができるよう積極的に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を取り入れたり、乳製品や水分摂取、運動や歩行訓練など、自然に排便ができるように支援している。また、利用者の状態によっては、主治医や看護師と相談し服薬の調整も行っている。	食事に食物繊維を取り入れたり、乳製品や水分摂取、運動や歩行訓練など、自然に排便ができるように支援している。また、利用者の状態によっては、主治医や看護師と相談し服薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安全に配慮し昼間にはなるが、本人の体調や意思を確認し、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにしている。	安全に配慮し昼間にはなるが、本人の体調や意思を確認し、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにしている。	週2回以上 ゆっくり入浴を楽しめるように配慮している。菖蒲湯などを楽しんで頂く配慮もしている。入浴以外に足湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行っている。夜間は安心して眠れるように、言葉かけや環境に配慮し、服薬をしなくても気持ちよく休まれるような支援を心がけている。	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行っている。夜間は安心して眠れるように、言葉かけや環境に配慮し、服薬をしなくても気持ちよく休まれるような支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報は個人ケースにファイルして職員がいつでも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に意思交換し本人に合わせた薬の調整を行っている。初めて服用される薬は、医師に状態を報告しながら慎重に対応している。	服薬の情報は個人ケースにファイルして職員がいつでも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に意思交換し本人に合わせた薬の調整を行っている。初めて服用される薬は、医師に状態を報告しながら慎重に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々の能力に合わせた役割をもち、達成感と自信・活気のある生活が送れるように支援している。また、絵手紙教室や舞踊、大正琴演奏などの地域のボランティアを受け入れ一緒に楽しむことの支援もしている。	日々の生活の中で、個々の能力に合わせた役割をもち、達成感と自信・活気のある生活が送れるように支援している。また、絵手紙教室や舞踊、大正琴演奏などの地域のボランティアを受け入れ一緒に楽しむことの支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には、畑を散歩したり、ユニット間やデイサービスを訪ねたり、希望に添って、買い物や外食、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。文化祭や陶器市と地域の行事が行われるときは、ご家族や地域の人に協力してもらい、場所の配慮などの協力をしてもらっている。	気候の良い日には、畑を散歩したり、ユニット間やデイサービスを訪ねたり、希望に添って、買い物や外食、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。文化祭や陶器市と地域の行事が行われるときは、ご家族や地域の人に協力してもらい、場所の配慮などの協力をしてもらっている。	出来るだけ戸外に出るよう心がけている。町内の行事や季節のドライブなど出かけるときは事前の下見(トイレ、階段など)を十分に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族の了解を得て、少額のお金を所持されたり、事務所の金庫に預けられ、外出された時などはそのお金で買い物を楽しんでおられる。	希望があれば家族の了解を得て、少額のお金を所持されたり、事務所の金庫に預けられ、外出された時などはそのお金で買い物を楽しんでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に協力してもらい、本人が電話をしたい時に出来るよう支援している。また、年賀状や手紙などを送る支援をしている。また、携帯電話を持たれている利用者様もおられ、自由に電話をされている。	家族に協力してもらい、本人が電話をしたい時に出来るよう支援している。また、年賀状や手紙などを送る支援をしている。また、携帯電話を持たれている利用者様もおられ、自由に電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、不快にならないように毎日掃除したり、生活や季節に合ったちぎり絵や、貼り絵などを、利用者と一緒に作成し飾りつけをしている。また、ホールは木の温もりがあり、窓を広く設け、自然の光を多く取り入れたり、草花を見て季節を感じられるようにしている。	共用の空間は、不快にならないように毎日掃除したり、生活や季節に合ったちぎり絵や、貼り絵などを、利用者と一緒に作成し飾りつけをしている。また、ホールは木の温もりがあり、窓を広く設け、自然の光を多く取り入れたり、草花を見て季節を感じられるようにしている。	職員は、利用者にとって集団生活がストレスにならないように利用者間の関係作りに特に気を配るようにしている。食事中は静かな音楽が流れている。ポータブルトイレはこまめに掃除されている。窓を開放し換気にも配慮されている。開放感のある窓と手作りの作品から季節感を感じることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は、ソファや和室があり、ソファでテレビを見られたり疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。	ホール内は、ソファや和室があり、ソファでテレビを見られたり疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、担当の職員が本人や家族と相談し、テレビや家具、写真などが飾られている。家族との思い出の物や、お位牌なども部屋に置かれ安心して過ごせるように支援している。	居室は、担当の職員が本人や家族と相談し、テレビや家具、写真などが飾られている。家族との思い出の物や、お位牌なども部屋に置かれ安心して過ごせるように支援している。	入所時に使い慣れたのものや好みのものを持ち込んでいただくように説明している。落ち着ける部屋づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間では、安全に歩行器や車椅子移動が出来るように空間を十分に確保し、その方に合わせたテーブルや椅子の位置などを工夫している。また、居室では、ベットや手すりの位置などを一人ひとりに合わせて変更するなど、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。	共用空間では、安全に歩行器や車椅子移動が出来るように空間を十分に確保し、その方に合わせたテーブルや椅子の位置などを工夫している。また、居室では、ベットや手すりの位置などを一人ひとりに合わせて変更するなど、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない